臨牀講義

嗜眠性腦炎

（大正十三年六月七日述）

金澤醫科大學教授醫學博士　大里俊吾講述
黑田豐馬記

今日御目ニ懸ケル患者ハ二十六歳ノ婦人デ身長骨格中等、多少羸瘦シテキマス。顏貌ハ多少不關性デアル外ニ重症ノ後ニ見ル樣ナ疲勞ノ有樣ヲ呈シテキマス。其他ニハ眼球等ニモ異常ガアリマセンシ、腦神經ノ麻痺ナドモ存在シマセン。著シイノハ四肢ノ强直、項部强直、及ビ輕度ノ「ケルニッヒ」症狀等デアリマス。膝蓋及「アヒレス」腱反射ハ亢進シテキマスガ、膝拘攣、足拘攣、「バビンスキー」現象、等ハアリマセン。其他內臟等ニハ何等ノ變化ヲ認メマセン。今一回繰リ返セバ、顏貌ノ不關性、無力疲勞性、項部及ビ四肢强直、等ガ目下ノ主要ナル所見デス。此レダケデハ無論診斷ハツキマセン。從テ我々ハ患者ノ既往症ヲ知ル必要ガアリマス。

有○春○。二十六歳、女、官吏族。

血族史。　父系ノ祖父ハ八十七歳デ老衰ヲ以テ斃レ、祖母ハ四十七歳デ死ニマシタガ病氣ハ明カデアリマセン。母系ノ祖父母モ既ニ他界致シマシタガ死因ハ不明デアリマス。父ハ五十八歳デ健在、母ハ三十八歳デ病死致シマシタガ、病名ハ明カデアリマセン。同胞トシテハ只一人ノ弟ガアルダケデ特ニ遺傳的疾患ト云フ樣ナモノハ認メラレマセン。

既往症。　患者ハ牛乳及ビ重湯デ哺育セラレタノデ、幼時カラ胃腸ガ餘リ健全デナカツタガ、別段此レト云ツテ大

患ニ罹ツタコトハアリマセン。十七歳ノ時結婚シテ、三子ヲ擧ゲ、何レモ健在デス。

一昨年二月第三子ヲ分娩シテカラ、餘リ健康ガ勝レナカツタガ、其後、貧血、中腹部ノ疼痛、等ガアツテ十二指腸蟲病ノ診斷ノモトニ、驅蟲療法ヲ受ケタ。本年二月下旬カラ、食慾不進、下腹部、側腹部ニ鈍痛アリ、惡心、不眠等ガアツテ、多少神經質ニナツテキタ。月經ハ一昨年ノ分娩以來アリマセン。

現病歴。　五月十日頃カラ全身ノ倦怠、熱感、頭重ガアリ一日數回、軀幹、殊ニ四肢ニ脱力違和感ガ表ハレ患者ハ憂鬱、不安ヲ覺エタ。此等ノ主訴ヲ以テ五月十七日ニ當科ニ入院シマシタ。其當時二三日ハ未ダ無熱デシタガ、入院ノ夜頃カラ不眠ヲ來シ、ソレガ三、四日續キ、廿一日ニナルト、前頭部並ニ上顎齒根部ニ激シイ疼痛ヲ訴ヘ、時々視野ガ暗クナリ、上眼瞼ノ壓重感ヲ覺エ、床上ニ坐テキテモ、談話中デモ、只何トナク眠氣ヲ催シ、廿三日カラ發熱シ漸次嗜眠ガ強クナツテ來タノデアリマス。

今廿八日ニ自分ガ廻診シタ時ノ狀態ヲ少シク詳述シマスト、　患者ハ嗜眠狀態デ、大聲デ呼ベバ低イ聲デ答ヘ、問ニ從テ非常ニ頭痛ガアルコトヲ答ヘタ。開眼ヲ命ズレバ僅ニ開ケマスガ、後ハ直チニ昏々トシテ眠テキマシタ。項部強直、輕度ノ「ケルニッヒ」現象ガアツタガ、四肢ノ強直ハナカツタ。腱反射モタイシテ亢進シテキナカツタ。患者ガ強イ嗜眠狀態デアツタ爲メ眼筋等ノ麻痺ガアツタカハ不明デスガ、角膜反應モアリ、皮膚ヲ捻レバ顔ヲ顰メ、食事モ強ヒテ命ズレバ嚥下スルコトモ出來タノデス。體溫ハ卅九度程デ、脈搏モ之レニ相應シテキマシタ。越エテ二日目ノ卅日ニ診タ時ニハ全ク昏睡狀態デ、大聲デ問ヘド答ヘナカツタ。皮膚ヲ捻テモ何等ノ反應ナク、角膜反應モ瞳孔ノ對光反射モ消失シテキタ。項部強直ノ外ニ輕度ノ上肢ノ強直ガ證明サレ、膝蓋腱反射ガ亢進シテキタ。コンナ狀態ガ二、三日續イテ五月卅日、卅一日ノ兩日ハ全ク食事ヲ攝ラナカツタ。六月一日ニ二回、六月二日ニ一回、患者ハ尿失禁ヲシテキル。ソレガ六月二日頃カラ多少外界ノ刺戟ニ應ズル樣ニナリ、六月三日ニハ頓ニ意識ガ鮮明ニナリ、六月四日ニハ全ク意識ガ恢復シテ來タ。項部ノ強直ハ依然トシテアリ、上肢ノ外ニ下肢ノ強直モダンダント強クナリ、且ツ咬

筋ノ强直ガ强ク、充分ニ開口スルコトガ出來ナカツタ。而シ何處ニモ神經ノ麻痺ハ證明サレズ、複視モ存在シナカツタ。熱ハ五月廿三日ニ三十八度近クニ上ツテカラ、三十九度乃至三十九度五分位ノ不規則ノ熱ガ六月二日迄續キ、六月三日カラ三十七度五分内外ニナツテキタ。便通ハ秘結シガチデ、多クハ浣腸ニヨツテ通ジタ。尿ハ有熱時ニ少許ノ蛋白ガ證明サレタ他ハ、タイシタ變化ハアリマセン。「ヂアツォ反應モ常ニ陰性デアツタ。以上デ御判リノ樣ニ、此ノ患者デ特ニ目立ツタノハ嗜眠デアツタノデス。實ハ前週御目ニ掛ケレバ、嗜眠狀態ガ見セラレルノデシタガ、今日迄ハ充分睡テ居ルツモリデアツタノガ、案外ニ早クヨクナツタノデ此ノ著シイ症候ヲ見セル機會ヲ逸シタノハ遺憾デス。

診斷學デ諸君ノ御承知デアラウ樣ニ、意識溷濁及ビ消失ノアル患者ニ於テソノ度合ニ從テ、

Somnolenz 異常ノ嗜眠。

Sopor 更ニ深キ嗜眠狀態ニテ、外界ノ刺戟ガ强ケレバ一時此レニ應ズルガ、刺戟ガ去レバ直チニ眠ル。

Koma 外界ノ刺戟ニ全ク應ジナイ意識消失ノ狀態。

ヲ分テキマスガ、サテカヽル意識ノ溷濁消失ヲ來ス場合ヲ考ヘテ見マスニ、諸君ガ極メテ屢々見テ居ラレル昏睡狀態ガアリマスガ、何デスカ、

學生　(甲)、知リマセン。

(乙)、知リマセン。

諸君ハ外科手術ノ場合ノ麻醉狀態ヲ屢々見ラレタデシヨウ。其他糖尿病性昏睡、尿毒症、等ハ此場合尿其他ノ所見カラ除外出來ル。癲癇發作後ノ意識障碍デ無イコトハ明カデス。「ヒステリー」、ノ Stigmata ハ此ノ患者ニ於テ存在シマセン。卒中モ無論此ノ場合ニハ除外出來マス。其他重症ノ熱性病患者、例ヘバ腸チブス」等ノ患者ニモ意識溷濁ガ來マスガ、我々ハ無論「ウイダール反應、菌ノ培養等ヲ怠ラナカツタノデスガ總テ陰性デシタ。

五月卅一日ノ血液像ハ白血球增多（一立方粍中一五〇〇〇）ノ他、タイシタ異常ハアリマセンデシタ。「ワ氏反應ハ陰性デシタ。

上述ノ臨牀的所見カラ第一ニ疑ハレルモノハ、流行性腦脊髓膜炎デアリマス。五月廿八日ニ行ツタ腰椎穿刺ノ結果ハ次ノ樣デス。

壓ハ九一粍、液無色透明、蛋白〇·七五％（エスバッハ氏法）、常法ニ從テ檢シタ一視野ノ白血球數三—四個、細菌學的檢索陰性（ノンネ・アペルト氏第一反應ハ或理由ノ爲メニ檢シ得ナカツタノデス）。

無論、普通ノ腦脊髓膜炎患者ニ於ケル所見トハ異ナリマス。此ノ患者ノ樣ニ嗜眠ヲ主症狀トシタ、獨立ノ疾患ト認メラレテキル病氣ガアリマス。嗜眠性腦炎ガソレデス。初メ不眠ガ二—三日續キ、次デ頭痛ヲ訴ヘ嗜眠狀態ニナルト云フコトハ、此ノ病氣ニ普通ニ見ル所デス。四肢ノ强直モ、殆ンド必發ノ症候デス。

次ニ簡單ニ本病ノ概念ヲ諸君ニ與ヘタイト思ヒマス。Encephalitis lethargica ナル病名ハ一九一六年 Wien ノ Economo 氏ガ始メテツケタノデス。其後往々嗜眠ヲ缺キ他ノ特徵ヲ呈スル患者ガアルト云フノデ、Encephalitis epidemica ナル名稱ヲ選ブ人モアリマス。其他 Encephalitis infectiosa; E. comatosa; E. mit Schlafsucht u. Starre; Epidemic Lethargie Encephalitis 等ノ名稱ガ、種々ノ人ニヨツテツケラレテキマス。我國デハ大正八年ノ夏頃東京附近ニ腦脊髓膜炎樣ノ疾患ガ見ラレ、同年長野縣下ニモ流行シ次デ東京、茨城、新潟、愛知、京阪地方、千葉、宮城、金澤等ニ流行性ニ發生シタノデス。本病ノ原因トシテ種々ノ人カラ、「グラム陽性ノ球菌ガ擧ゲラレテキマスガ、未ダ一般ニ是認サレタ病原體ハ無イ樣デス。直接ノ傳染力ハソンナニ强クハ無イラシイ。

本症ト「インフルエンザ」トノ關係ハ、本症ガ常ニ「インフルエンザ」ノ大流行ト前後シテ流行シテキル所カラ、學者ヨツテハ獨立ノ疾患タルコトヲ疑フ人モアル樣デス。Economo 氏ガ本病ヲ記載シタノハ斯ノ「インフルエンザ」大流行ノ二年前デアリマス。本邦ニ於テハ大正七八年ノ交ニ、「インフルエンザ」ノ大流行ガアリ、數ケ月後ニ本症ガ表ハレ

テ來タノデス。古イ歴史ニ於テモ屢々「インフルエンザ」流行後ニ一種ノ嗜眠性疾患ガ記載セラレテキル樣デス。今日多クノ人ノ考ヘデハ本病ト「インフルエンザ」トノ關係ハ、百日咳ノ麻疹ニ於ケル樣ナモノト思ハレテキル樣デス。

本病ノ症候トシテハ、前述ノ嗜眠ハ重要ナル症狀ノ一ツデスガ、ソレハ普通ハ生理的睡眠ニ甚ダ近イモノト云ハレテキマス。患者ハ刺戟ヲ與ヘルト醒スコトガ出來、簡單ナ應答モ致シマス。食物モ此レヲ口ニ入レテヤツテ嚥下ヲ命ズレバ嚥ミ下シマスガ、默テ居レバ口ニ入レタマヽ眠リマス。若シ病勢ガ增進シテ末期ニ近クト、全ク昏睡ニ陷リマス。複視、上眼瞼下垂等ハ屢々早期ニ表ハレ且ツ頻發ノ症候デアリマス。其他眼球震盪症ナドモ屢々見ラレテキマス。熱型ハ一定シテキナイ樣デス。不規則ナ三十九度內外ニ熱ガ數日又ハ二—三週間位續キマス。

バルキンソン氏病ニ見ル樣ナ顏貌ノ不關性假面狀、筋肉ノ强直、他動運動ニ對スル抵抗ナドモ屢々見ラレル所デス。

其他、ヒョレア樣、テタニー樣、アテトーゼ樣ノ運動ヲナスモノモアリマス。咀嚼樣ノ下顎ノ持續性ノ運動ヲ見タコトモアリマス。

全經過ヲ通ジテノ主要症候ニ從テ、種々ノ病型ガ分タレテキマス。我々ノ場合ハ純嗜眠性型ト云フコトガ出來マセウ。嗜眠ノ深淺、繼續ノ時日等ハ一定シマセンガ、多クハ二—三週間或ハ月餘ニ亘ルモノモ稀レデナイ樣デス。

病氣ノ恢復期ニハ屢々多汗、唾液分泌過多、等ガ見ラレテキマス。顏貌ノ假面樣、四肢ノ强直、前述ノヒョレア樣其他ノ運動ナドハ後症狀トシテ、病氣ノ經過後長イ間存在スルコトガ稀レデアリマセン。

豫後ハ三〇—四〇%ノ死亡率ガアルト云ハレテキマス。殊ニ嗜眠ノ甚シイモノハ豫後ガ不良ノ樣デス。

診斷上前述ノ外ニ尙鑑別スベキ病名ダケ擧ゲテヲキマス。

Poliocuceplialitis acuta hämorrhagica superior (Wernicke); Encephalitis acuta hämorrhagica (Strümpell, Leichtenstern); Heine. Medin 氏病; Botulismus 等、

病理解剖上殊ニ屢々變化ノ見ラレルノハ、腦幹ノ灰白質デ第三、第四腦室底、「ジルヴイ氏導水管ノ周圍等ガ屢々犯サ